



# 確かな学力の向上をめざして【11月】

## ■とっとり学力・学習状況調査の活用 ～「学力の伸び」～

昨年度スタートした「とっとり学力・学習状況調査」（以下「とっとり学調」）の実施が2年目となり、今年度は初めて「学力の伸び」を確認することができます。とっとり学調の「肝」とも言えるこの「学力の伸び」。今号では、その基本的なしくみについて紹介したいと思います。

### ★指標は「学力レベル」



とっとり学調では、学力調査の結果で「学力レベル」が示されます。問題例（右）にあるように、全ての問題に難易度が設定してあり、どれだけ難易度の高い問題に正答できたかによって学力レベルが決まります。つまり、学力レベルが高いほど、より難しい問題に正答できていると考えることができます。しかし、ただ単に難しい問題ができればよいのではなく、実は学力レベルが上がるためには、ある一定の条件があるのです。

### ★学力レベルが上がる3つの条件

学力レベルが上がるためには、以下の**3つの条件を全て満たす**必要があります。



- ①既習内容を身に付けている
- ②新しい知識を身に付けている
- ③より難度の高い問題が解けている



つまり、とっとり学調における「学力の伸び」とは、これら3つの条件全てにおいて、前年度に比べて伸びが見られているということです。ですから、学力レベルが1つでも上がるのはとてもすごいことなのです。日々の授業において、児童・生徒が既習内容をもとにして新たな知識や技能を習得し、それらを活用してより難度の高い問題を解決するために思考・判断・表現し合う場を充実させること。こうしたことを意図した授業づくりの大切さが、改めて見えてきます。

### 非認知能力「自己効力感」

今年度の調査から、対象の全学年で「自己効力感」が測られています。先行する埼玉県による調査研究から、「自己効力感」は学力向上に特に強く影響を与えることが分かってきました。今年度は、小5と中2のみ変化が確認できますし、その他の学年も数値からその状況に注目してみるのもよいでしょう。

授業した児童・生徒の何%が学力レベルの伸びを示したか？ 伸ばすためには、どこにどんな手を打ち、授業改善する必要があるのか？ そうした視点で振り返ってみるのもよいですね。



【問題例：小学6年算数】

高	問題の難易度	問題例
↑ 難易度 ↓	6 (小6で出題)	<p>次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。</p>
	4 (小6で出題)	<p>次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ2cm、4cm、5cmの直方体の体積を求めましょう。</p>
低		与えられた数値を全てそのまま使って体積を求める問題です。←

必要な数値を取捨選択して求めるため、難易度が上がります。←

与えられた数値を全てそのまま使って体積を求める問題です。←

「確かな学力」バックナンバー もあわせてご覧ください。

👉令和3年10月号：「とっとり学力・学習状況調査」の活用

